

## 参考2 東北農業の概要



# I 東北の農業の概要

区 分	年次	単位	東 北	全 国	全国に占める 東北の割合	区 分	年次	単位	東 北	全 国	全国に占める 東北の割合
食料自給率(カロリーベース)	29年 (確定値)	%	-	38	-	おうとう (結果樹面積)	元年 (概数値)	ha	2,928	4,320	-
(生産額ベース)	29年 (確定値)	%	-	66	-	(収穫量)	"	t	12,299	16,100	-
農業総産出額(全国推計)	30年	億円	-	90,558	-	花き(切り花類)(作付面積)	元年	a	173,100	1,380,000	12.5 %
うち 米	"	"	-	17,416	-	(出荷量)	"	千本	293,700	3,482,000	8.4 %
うち 野菜	"	"	-	23,212	-	りんどう (作付面積)	"	a	33,900	42,200	80.3 %
うち 果実	"	"	-	8,406	-	(出荷量)	"	千本	73,800	85,200	86.6 %
うち 畜産	"	"	-	32,129	-	ホップ (生産量)	"	t	195	203	96.1 %
農業産出額(都道府県別推計)	"	"	14,325	91,283	15.7 %	海面漁業・養殖業産出額	30年	億円	1,865	14,238	13.1 %
うち 米	"	"	4,622	17,513	26.4 %	くろまぐろ (漁獲量)	30年	t	2,325	7,884	29.5 %
うち 野菜	"	"	2,683	23,212	11.6 %	さけ・ます類 (漁獲量)	"	t	16,333	95,473	17.1 %
うち 果実	"	"	2,016	8,406	24.0 %	さんま (漁獲量)	"	t	45,688	128,929	35.4 %
うち 畜産	"	"	4,445	32,589	13.6 %	ほたてがし (収穫量)	"	t	87,038	173,959	-
耕地面積	令和元年7月	ha	830,700	4,397,000	18.9 %	かき類 (収穫量)	"	t	32,732	176,698	18.5 %
うち 田	"	"	598,300	2,393,000	25.0 %	林業産出額	"	億円	711	4,629	15.4 %
うち 畑	"	"	232,400	2,004,000	11.6 %	農業経営体	27年	経営体	247,713	1,377,266	18.0 %
耕地利用率(田畑計)	30年	%	83.6	91.6	-	うち家族経営体	"	"	241,607	1,344,287	18.0 %
水稲の作況指数	元年	-	104	99	-	うち法人	"	"	368	4,323	8.5 %
水稲(子実用)(作付面積)	"	ha	382,000	1,469,000	26.0 %	うち組織経営体	"	"	6,106	32,979	18.5 %
(収穫量)	"	t	2,239,000	7,762,000	28.8 %	うち法人	"	"	3,292	22,778	14.5 %
[参考]うち主食用(作付面積)	"	ha	344,600	1,379,000	25.0 %	総農家	"	千戸	333.8	2,155.1	15.5 %
(収穫量)	"	t	2,015,000	7,261,000	27.8 %	販売農家	31年2月	"	200.0	1,130.1	17.7 %
小麦(子実用)(作付面積)	"	ha	6,370	211,600	3.0 %	うち主業農家	"	"	41.8	235.5	17.7 %
(収穫量)	"	t	18,500	1,037,000	1.8 %	認定農業者	31年3月末	経営体	50,886	239,043	21.3 %
六条大麦(子実用)(作付面積)	"	ha	1,300	17,700	7.3 %	集落営農	2年2月	集落営農	3,325	14,832	22.4 %
(収穫量)	"	t	4,360	55,800	7.8 %	うち法人	"	"	979	5,458	17.9 %
大豆(乾燥子実)(作付面積)	"	ha	35,100	143,500	24.5 %	基幹的農業従事者	31年2月	千人	243.6	1,404.1	17.3 %
(収穫量)	"	t	52,100	217,800	23.9 %	うち65歳以上	"	%	69.9	69.7	-
そば(乾燥子実)(作付面積)	"	ha	16,900	65,400	25.8 %	平均年齢	"	歳	66.5	66.8	-
(収穫量)	"	t	9,210	42,600	21.6 %	荒廃農地	30年	ha	33,125	279,970	11.8 %
りんご (結果樹面積)	元年 (概数値)	ha	26,884	36,000	74.7 %	うち再生利用可能	"	ha	17,377	91,524	19.0 %
(収穫量)	"	t	545,090	701,600	77.7 %	野生鳥獣による農作物被害金額	"	万円	129,771	1,577,740	8.2 %

資料：農林水産省「食料需給表」、「作物統計」、「生産農業所得統計」、「2015年農林業センサス」、「耕地及び作付面積統計」、「集落営農実態調査」、「認定農業者等の認定状況」、「野生鳥獣による都道府県別農作物被害状況」、「林業産出額」、「漁業産出額」、「農業構造動態調査」、「漁業・養殖業生産統計」、「ホップに関する資料」

- 注：1) 果樹、ホップの東北計は主産県の積み上げ値である。  
 2) 「漁業・養殖業生産統計」の東北計は各県の積み上げ値(ただし、秘匿対象県は除く。)である。  
 3) 林業産出額は都道府県別産出額の積み上げ値である。  
 4) 海面漁業、養殖業産出額は、大海区都道府県別産出額の積み上げ値である。  
 5) 海面漁業、養殖業産出額には、種苗生産額は含まない。



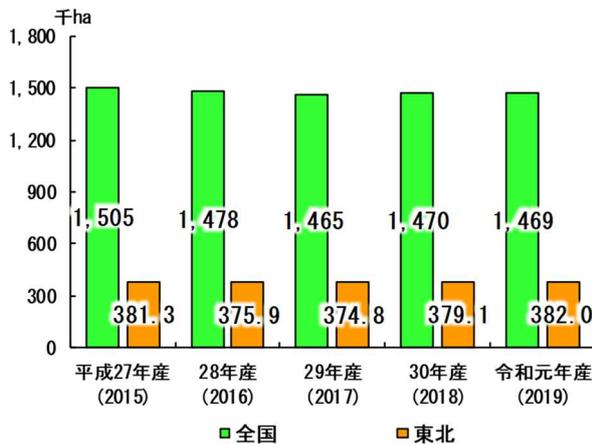
## II 主要農畜産物等の生産動向

### 1. 米

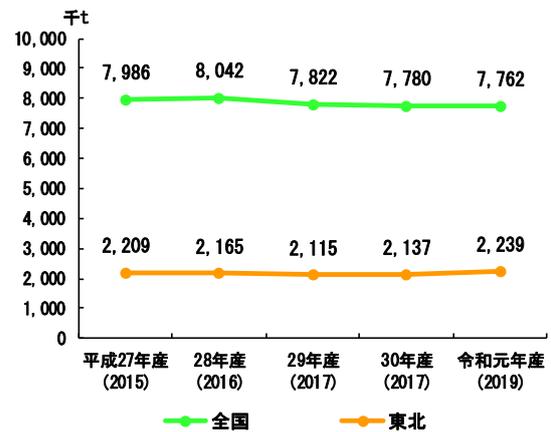
(水稲作付面積、収穫量は、前年産より増加)

- 令和元(2019)年産の東北の水稲(子実用)作付面積は、前年産に比べて0.8%増加して38万2,000haとなりました(図表 参2-1)。
- また、東北の水稲収穫量は、前年産に比べて4.8%増加して223万9,000tとなりました(図表 参2-2)。
- なお、令和元(2019)年産水稲の作柄については、田植期以降おおむね天候に恵まれたこと等により、主に福島県や宮城県で台風第19号等による被害がみられたものの、10a当たり収量は586kg(前年比プラス22kg)、作況指数は104となりました。

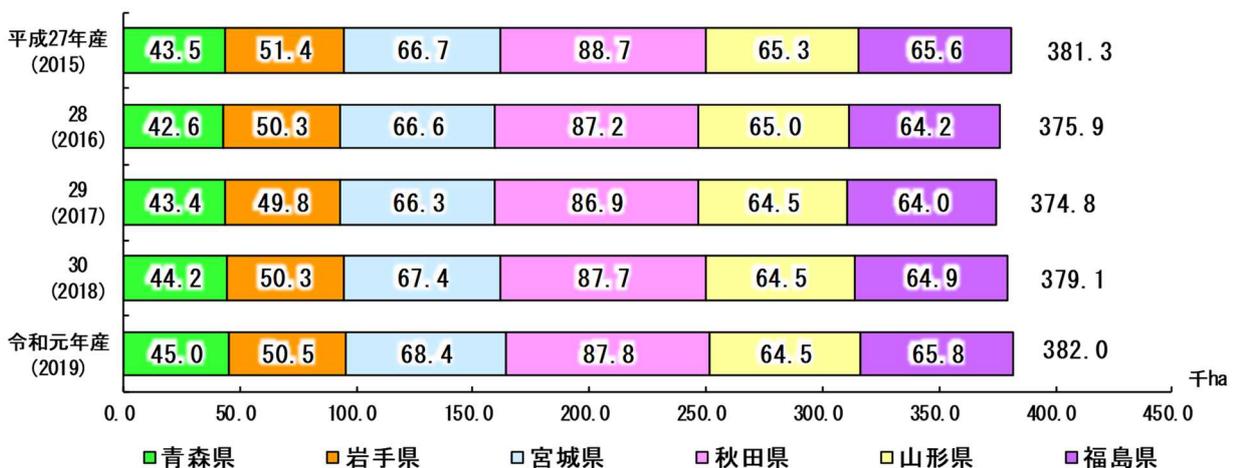
図表 参2-1 水稲(子実用)作付面積の推移  
(全国・東北)



図表 参2-2 水稲収穫量の推移 (全国・東北)



図表 参2-3 水稲(子実用)作付面積の推移 (県別)

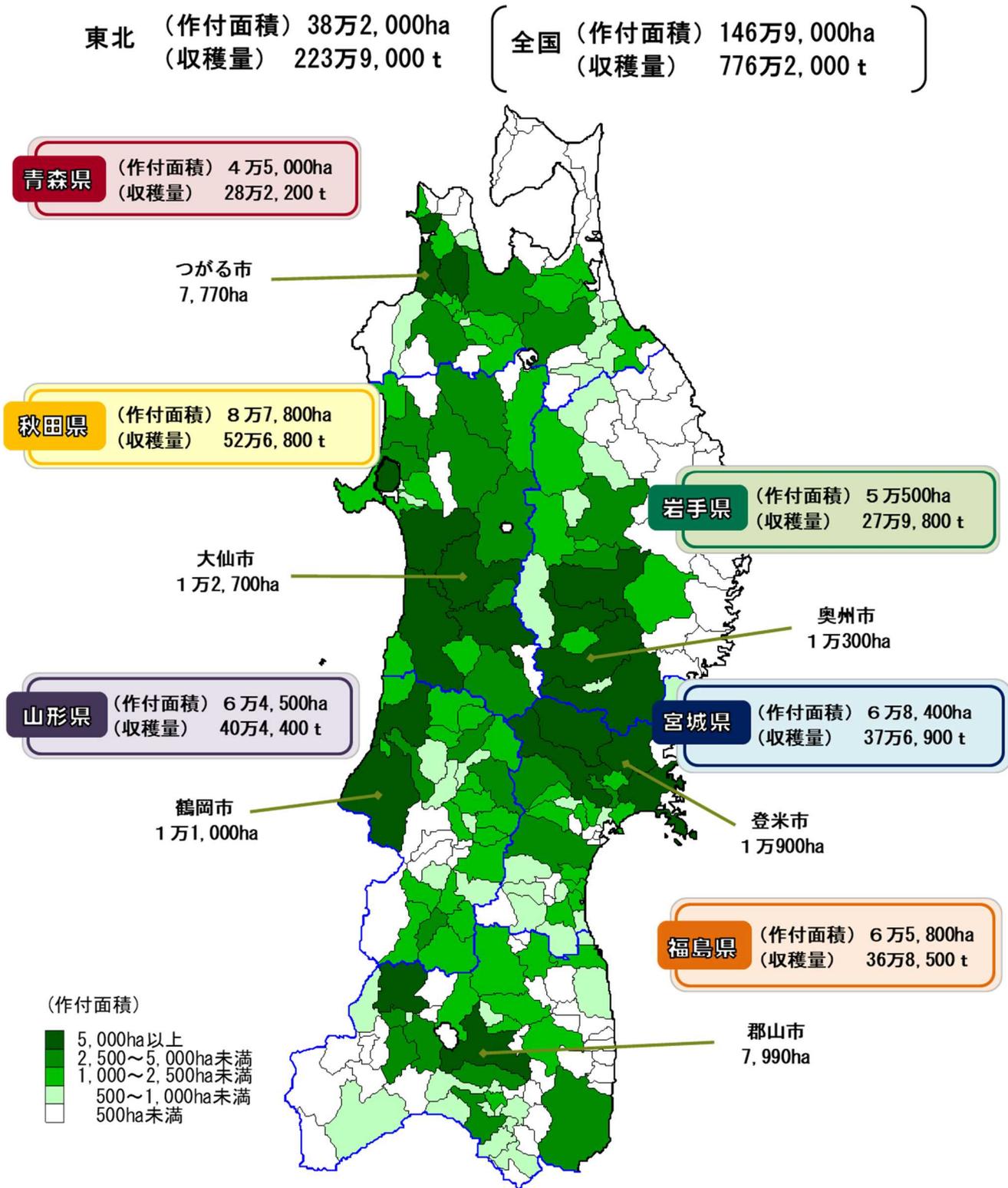


資料：農林水産省「作物統計」

注：1) 子実用とは、主に食用にすることを目的とするもの

2) 作付面積の推移(全国・東北)の東北の値と作付面積の推移(県別)の各県の値は、データごとに四捨五入するため、一致しない場合がある。

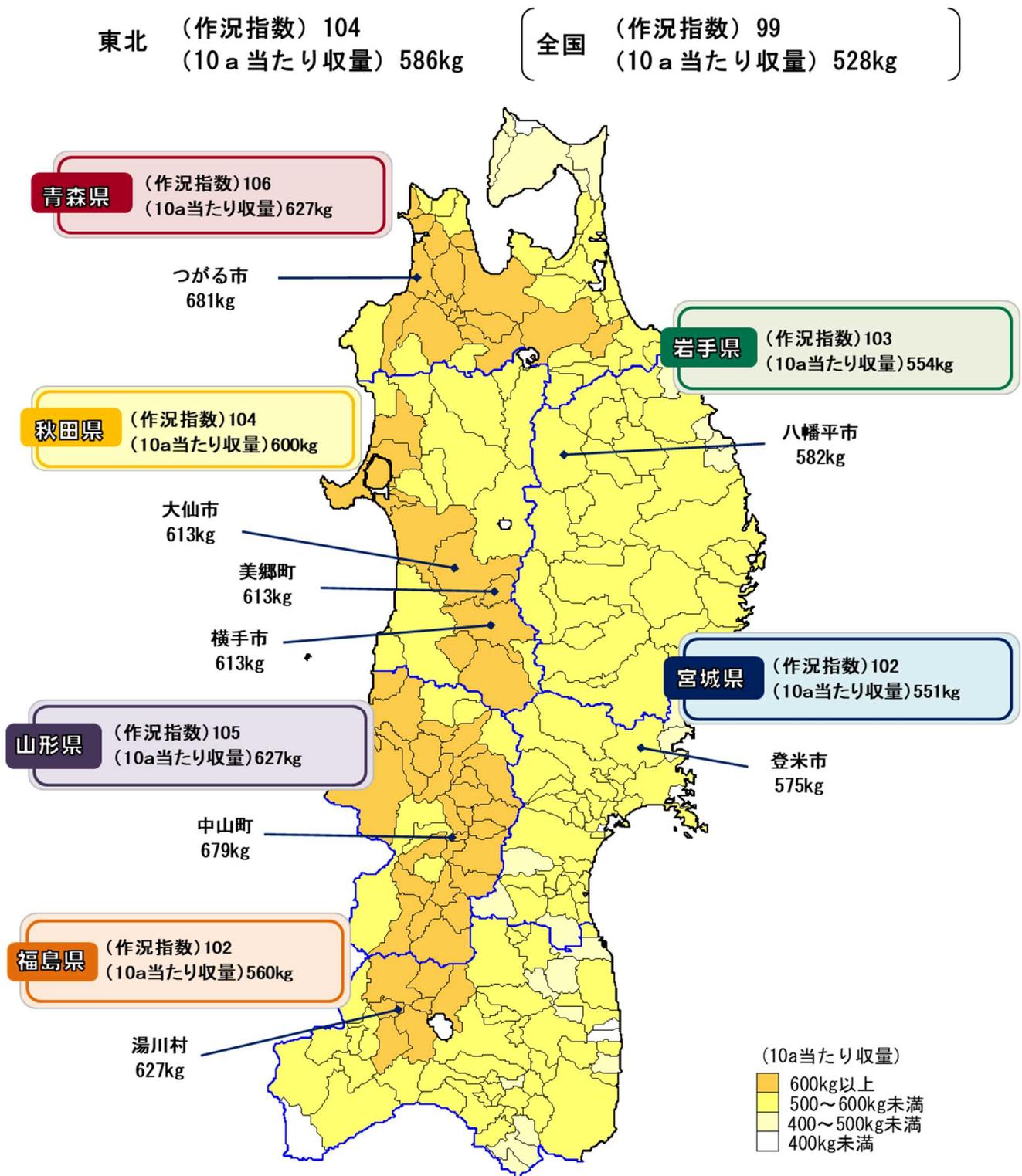
図表 参2-4 水稻（子実用）の作付面積（令和元(2019)年産）



資料：農林水産省「作物統計」

- 注：1) 子実用とは、主に食用にすることを目的にするものをいい、全体から青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いたもの
- 2) 個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、一部の市町村の水稻（子実用）作付面積を公表していないことから、当該市町村は白色としている。
- 3) 表示した市町村は、各県内で作付面積が公表されている市町村で最も大きい市町村である。

図表 参 2-5 水稻の 10a 当たり収量及び作況指数（令和元(2019)年産）



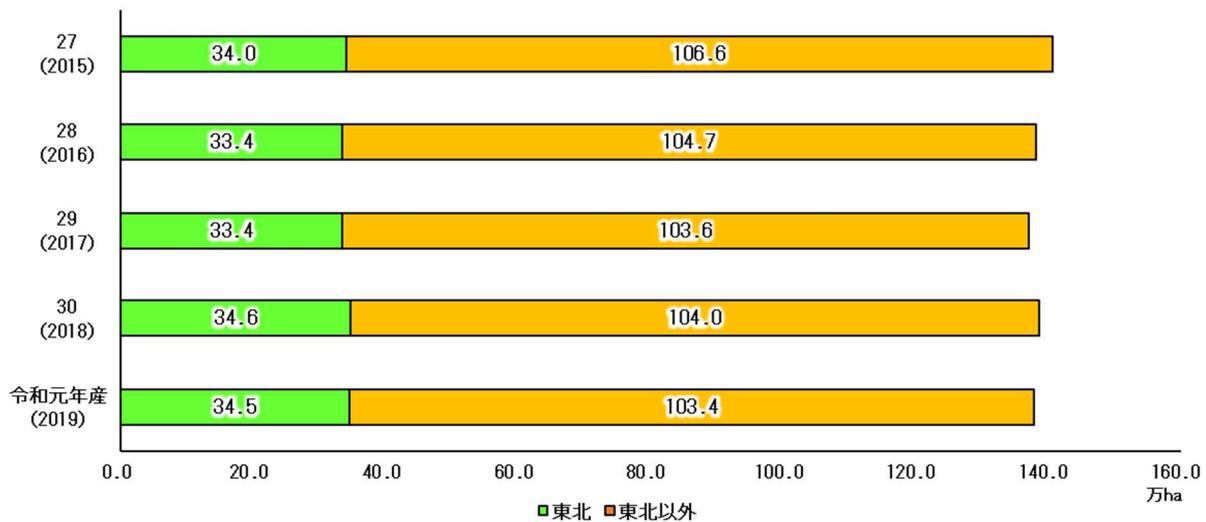
資料：農林水産省「作物統計」

- 注：1) 10a 当たり収量は 1.70mm のふるい目幅で選別された玄米の数量  
 2) 令和元(2019)年産の作況指数は、全国農業地域の農家等が使用しているふるい目幅の分布において、大きいものから数えて 9 割を占めるまでのふるい目幅（東北は 1.85mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値  
 3) 個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、一部の市町村の結果を公表していないことから、当該市町村は白色としている。  
 4) 表示した市町村は、各県内で 10a 当たりの収量が公表されている市町村で最も大きい市町村である。

(主食用米の作付面積は、前年産より減少)

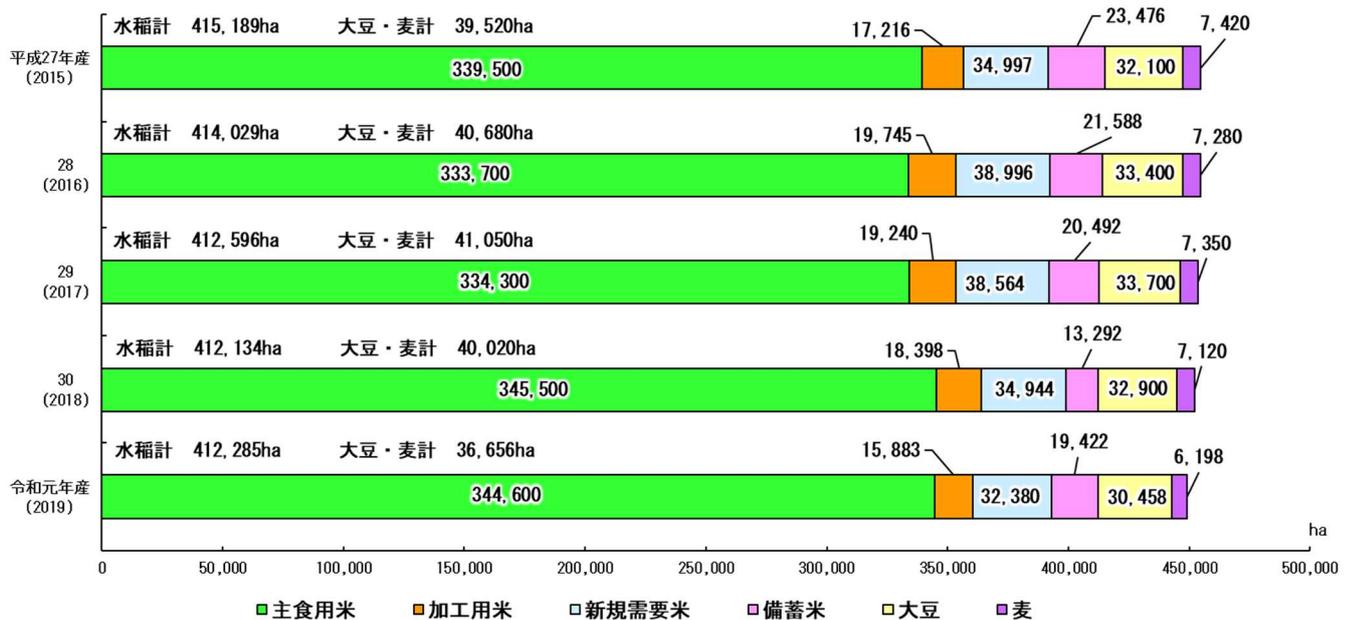
- 東北の主食用米の作付面積は、前年産と比べて0.3%減少して34万5,000haとなりました(図表 参2-6)。
- また、東北における水田の利用状況(水稻+大豆・麦)の作付面積をみると、備蓄米が増加していることにより、主食用米や飼料用米等が減少する結果となりました(図表 参2-7)。

図表 参2-6 主食用米の作付面積の推移(全国・東北)



資料：農林水産省「都道府県別の需給調整の取組状況」及び「水田における都道府県別の作付状況」

図表 参2-7 水田の利用状況の推移(東北)

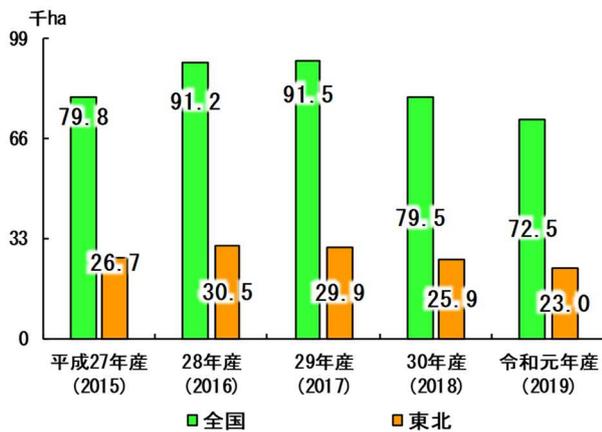


資料：1) 農林水産省「都道府県別の需給調整の取組状況」及び「取組計画認定状況」  
2) 農林水産省「作物統計」

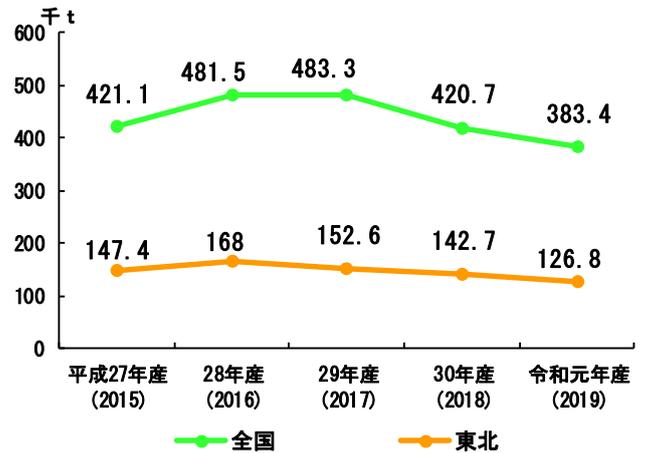
(飼料用米の作付面積は、前年産よりやや減少)

- 東北の飼料用米の作付面積は、地元畜産農家や配合飼料メーカーとの結び付きが進んだことなどから近年増加傾向にありましたが、令和元(2019)年産では、一部で主食用米へ転換されたことにより、前年産に比べて減少し、2万3,000haとなりました(図表 参2-8)。
- 飼料用米の収穫量は、前年産に比べて11.1%減少し、12万6,800tとなりました(図表 参2-9)。
- 農林水産省は、飼料用米生産農家の技術向上を推進するため、「飼料用米多収日本一」のコンテストを主催していますが、令和元(2019)年度、東北からは4経営体が表彰されました。

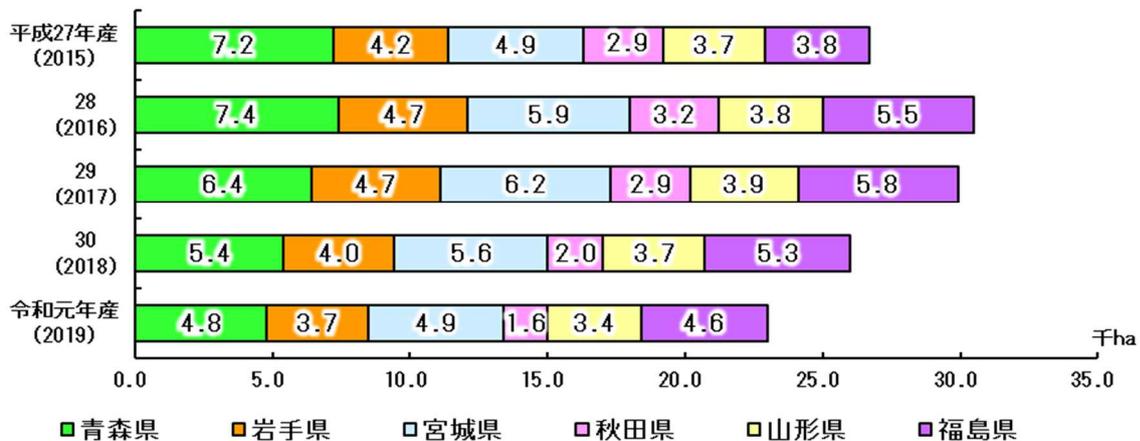
図表 参2-8 飼料用米作付面積の推移 (全国・東北)



図表 参2-9 飼料用米収穫量の推移 (全国・東北)



図表 参2-10 飼料用米作付面積の推移 (県別)



資料：1) 農林水産省「新規需要米の取組計画認定状況」

2) 多収品種の作付割合は、東北農政局調べ

注：1) 作付(栽培)面積の推移(全国・東北)の東北の値と作付(栽培)面積の推移(県別)の各県の値は、データごとに四捨五入するため、一致しない場合がある。

2) 多収品種には、知事特認品種を含む。